

新施設「Ikari Technical College」が 業界専門誌に掲載されました

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の新施設「Ikari Technical College（イカリテクニカルカレッジ）：ITC」が、業界専門誌である「月刊食品工場長5月号」「月刊 HACCP 5月号」「月刊フードケミカル」にそれぞれ掲載されたのでお知らせいたします。

記

・月刊食品工場長 5月号 Close Up!（5月1日発行）

<https://info.nissyoku.co.jp/modules/kojocho/publish.php>

・月刊 HACCP 5月号 GRAVURE（5月1日発行）

<https://www.keiran-niku.co.jp/haccp.html>

・月刊フードケミカル 研究所ルポ（5月1日発行）

<https://www.foodchemicalnews.co.jp/headline/headmfc/6468.html>

以上

《本件に関するお問い合わせ先》

イカリ消毒株式会社 広報 G

電話：03-3350-1406

イカリ消毒(株)

Ikari Technical College



Close Up!

最高レベルのサービスを 追究するための新施設が登場

2021年11月、環境・健康・生活の文化を創造するイカリ消毒(株)の総合研究開発拠点「Life Creation Square」(千葉県習志野市)に、「Ikari Technical College」が新設された。「検査体制の拡充から基礎・応用研究開発、人材育成まで、最高レベルのサービスを追究するための施設」とはどのようなものなのだろうか。現地を訪れた。



Life Creation Square に新設された Ikari Technical College (写真右)

総合研究開発拠点 Life Creation Square

LC環境検査センター

- 1F 異物検査
- 2F トラップ検査
- 3F 栄養成分
アレルゲン検査
水質検査

エンジニアリングセンター

- 1F 製品試験開発
- 2F 購買物流部
- 3F 商品開発部

技術研究所

- 1F ネズミ・昆虫飼育
- 2F 実験室

ライブラリー

BMSA・ 環文研研究棟

NEW

Ikari Technical College

- 1F イカステリファーム
- 2F 微生物検査 [LC環境検査センター]
- 3F 微生物検査 [LC環境検査センター]
- 4F Conference Hall
- 5F Practical Training Room

Ikari Technical College 概要

所在地	千葉県習志野市茜浜 1-12-3
設立年	2021年 11月
従業員数	40人 (LCスクエア全体で200人)
敷地面積	466m ²
延床面積	2322m ²
主な施設内容	環境殺菌・除染事業、微生物検査、会議室、研修模擬施設

テーマは社員教育とサービスの
均一化・レベルアップ

イカリ消毒は「Life Creation Square」(以下、LCスクエア)を2017年に開設。それまで点在していた検査、技術・商品開発、研究部門を1拠点に集約させたことで部門間の連携速度が上がり、濃密な研究・開発が行え、会社全体の技術の底上げを実現した。そして21年11月、人材育成の強化、検査体

制の拡充、研究開発力のさらなる向上を目的に、LCスクエア内に「Ikari Technical College」(以下、ITC)を設立した。この名称には、「信頼される技術者を育成したい」という同社の強い思いが込められている。

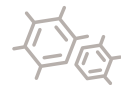
5階建てのITCには、今までにない画期的な研修・検査環境や研究開発に向けた最先端設備が完備されている。また、従来は別の場所にあった「LC環境検査センター」の微生物検査グループを、ITCの検査実務を行うエリアに移動。12年に厚生労働大臣登録検査機関の認定を受けているが、移動を機に検査能力も大幅な拡充を図った。同社執行役員LC環境検査センターの吉浪誠センター長は、「ITCのテーマは、均一化された質の高いサービスをお客さまに提供すること」と強調する。

ITCのセクション・施設

ITCの主なセクションと施設は次の通り。

除菌・除染事業▼ケミカル室、培養・無菌試験室(1階)

大小三つのケミカルルームがあり、用途に応じて使い分けている。過酢酸系除菌製剤や二酸化塩素などのガスを体を用いた除染や科学的根拠に基づく検査社員の除染トレーニング、受託除染などが行える。培養・無菌試験室は医薬



関係、再生医療の検体を検査するクリーンルーム（清浄度：クラス1万）。施設の拭き取り検査や浮遊菌検査などの環境検査だけでなく、除染施工の効果判定、無菌試験など各種試験にも対応する。

LC環境検査センター ▼ **微生物検査室** (2・3階)

食品の微生物検査を中心に、賞味期限設定のための保存試験、微生物クレーム品の原因究明、細菌・カビの同定（遺伝子検査）などを行う。従来よりも大幅に拡充された検査処理・培養室のほか、食品の保存試験専用の保存室が設置され、同社が進める総合衛生管理サービスを具現化するための機能が随所に組み込まれている。

Practical Training Room ▼ **模擬研修施設** (5階)

実際の現場を想定して設けられた模擬研修施設。食品工場や店舗、天井裏などの環境・設備が再現され、それらの空間を活用して調査や安全対策、薬剤の防除施工などの研修が行われる。

**実践の環境に限りなく近い
模擬施設**

I・T・Cで特に注目されるのは、5階のPractical Training Room。仮想食品工場の床はウエットエリアとドライエリアに仕様分けされ、想定する環境に合わせて四つの材質の床が用意されている。水を流した後の汚れ具合や、温度変化に伴う伸縮膨張が引き起こす排水溝と床の隙間の再現も可能だ。

壁は構造上隙間が生じるエキスパンションジョイントの部分がくり抜かれ、内部の様子が可視化されている。また、壁や天井のタイルの目地コーキング部分の一部抜けるなど、ネズミや害虫が侵入しそうな場所が所々に仕込まれている。

中2階の部屋では天井板が外されており、天井カセット型エアコンの配管部分がむき出し状態で設置されている。エアコンの水分がたまりやすい場所を目視確認することで、害虫の発生箇所を学習できる。



執行役員 LC環境検査センターセンター長
吉浪 誠氏



技術サービス部 部長代理
田畑 篤氏



(株)イカステリファーム 取締役
榎田 順一氏

**業務を安全にこなすための
技術を培う**

研修の受講者は模擬施設でこうしたさまざまな仕掛けを発見し、害虫の発生原因や設備の破損・汚染原因などを自ら考え、思考を巡らすことで調査能力を鍛えることができる。微生物調査・対策などの研修利用も検討されており、施設の活用は今後も広がる。

工場の天井裏が忠実に再現されていることにも驚きだ。天井裏の模擬施設

には、つりボルトや梁などがぎっしりと張り巡らされ、配管やダクトが配置されている。ここで天井裏作業の課題が与えられ、落下防止器具を装備して安全な歩き方や重心移動、足場の組み立てなどを学ぶ。

指示通りに課題を解決することも重要だが、自分の身体能力やキャパシティを理解した行動も求められる。別の解決方法を見いだす判断能力や、危機を察知したら先へは進まず、安全な調査方法に切り替えたり、落下を回避



1 食品工場を想定した模擬研修施設「Practical Training Room」(5階) / 2 壁の一部がくり抜かれ、エキスパンションジョイントの中身が確認できる / 3 コーキングが一部抜け落ちた壁面 / 4 配管部分が目視確認できる天井カセット型エアコン / 5 忠実に再現された天井裏の模擬施設



6,7 微生物検査フロアの「第2処理室」にある自動化装置(6)と無菌空間装置(7) / 8 微生物検査フロアにある食中毒菌判定・カビ同定などを行う部屋 / 9 ケミカル室での過酢酸サイクル除染®システムを使った検証試験 / 10 ケミカル室での過酢酸系除菌剤(ミンケア)によるドライフオグ除染の様子

したりするなどの危機管理能力が養われる。この模擬施設で訓練を積むことで、社員が現場で安全に作業ができるようになる。

「従来の新入社員研修は、座学を行った後に各現場のOJTを通じて業務を覚えていくプロセスでした。このPractical Training Roomを活用することで、座学に加え、事前に実践現場に近い環境で高度な研修が段階的に行えます。技能のばらつきをなくして新入社員の教育レベルを底上げし、標準化を目指します」(技術サービス部部长代理 田畑篤氏)

**施設の清浄環境維持支援を
行う微生物対策の専門家集団**

1階の各施設を利用するグループ会社の(株)イカリストリファームは、高度

なクリーン環境構築に因應するための微生物対策の専門家集団だ。除染をはじめ、機器やクリーンルームの性能検査・受託試験を中心とした施設の清浄環境維持支援が主な業務で、同社が利用する各施設はほかの施設同様、より高度な社員育成を図る目的も含んでいる。

ケミカル室では菌を付着させた検体を薬剤に暴露させる効果試験や、顧客から預かった機器の過酢酸系除菌剤・二酸化塩素ガスをを用いた受託除染、また施工先と同等の環境を再現した部屋を用いた社員の技術トレーニングも行っている。

「サービス品質を担保するため、再生医療や大学の研究室レベルの部屋を設けました。検査で得たエビデンスデータを活用した高度な検証ができるほか、社員教育の質も向上させることができ

ます。ITCには弊社の多様な部門が集約しているので、現場を含め連携を取りながらお客さまの課題解決に向か合えます」(株)イカリストリファーム取締役 榎田順一氏)

**自動化・省人化を取り入れた
微生物検査**

LC環境検査センターは、全国の顧客や営業所から依頼を受けた各種検体に対して検査を行う。2階と3階の微生物検査室は、交差汚染を防ぐために機能的に配置され、動線もワンウエーになっている。2階で受け付けられた検体はエレベーターで3階に運搬。保存試験用の食品は20台のインキュベーターで適切な温度に保存された後、検査が行われる。3階の処理室には最新式の自動検査装置が採用されており、

希釈やシャーレへの分注が機械化されている。それにより検査が省人化され、人材不足への対応も可能である。

「微生物検査は総合衛生管理への対応とともに順調に拡大しており、検査員は約40人体制、年間5万件を超える検査を行っています。以前より検査レベルも設備も充実していますので、今後も対応可能な分野を拡大し、さらなる自動化・省人化も視野に入れ、サービス体制を拡充していきます」(吉浪センター長)

**教育・技術力の底上げで
最高レベルのサービスを提供**

「全ての拠点から価値ある提案と感動を安定的に提供する」
同社のこの目標を実現させるのが、まさに徹底された教育施設、集約された技術、各部門の連携力などの要素が詰まったITCと、そこで育まれる人材なのだ。

「お客さまに喜んでいただく最高レベルのサービス・品質を提供するために、これからも営業所やグループ会社を含め、教育や技術力を底上げしていきます。営業部門・技術部門を分け隔てなく連携させ、お客さまの要望にお応えし、今後は医薬品や再生医療などの分野にもさらに業務を拡大・発展させていきます」(同)